

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程用)

教科	理科	学年	1 年	時間数	105 時間
----	----	----	-----	-----	--------

教科書名	新しい科学1年 2年	出版社名	東京書籍
------	------------	------	------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	知	思	主	
一 学 期	4	(1年)単元1 いろいろな生物とその共通点	1 身近な生物の観察			○	授 業 の 概 要 理科は、物質やエネルギー、生物や自然に関する分野を単元ごとに入れ替えながら学習します。 1年生では、「いろいろな生物とその共通点」、「生物のからだのつくりとはたらき」、「身のまわりの物質」、「身のまわりの現象」、「大地の変化」について学習します。 実験・観察も行いますが、計算問題などの難しい問題の演習も行い、基礎・基本の習得や応用力を身に付けます。 学 習 の 到 達 目 標 ・自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
		1章 生物の観察と分類のしかた	2 生物の特徴と分類	○	○		
		2章 植物の分類	1 身近な植物の分類 2 果実をつくる花のつくり	○		○	
			3 裸子植物と被子植物	○		○	
	5		4 花をさかせず種子をつくらない植物 5 さまざまな植物の分類	○		○	
		中間考査(5/16～5/17)		◎	◎	○	
		3章 動物の分類	1 身近な動物の分類 2 セキツイ動物	◎	◎		
	6		3 無セキツイ動物 4 動物の分類表の作成		○	○	
		(1年)単元2 身のまわりの物質	1 物の調べ方 2 金属と非金属		○	○	
		1章 身のまわりの物質とその性質	3 さまざまな金属の見分け方	○		○	
二 学 期	7		4 白い粉末の見分け方		○	○	
		期末考査3年(6/28～7/4)		◎	◎		
		期末考査1・2年(6/29～7/4)		◎	◎		
		2章 気体の性質	1 身のまわりの気体の性質 2 気体の性質と集め方	○		○	
	8	3章 水溶液の性質	1 物質が水にとけるようす	○			
		夏季休業日(7/21～8/24)					
	9	4章 物質の姿と状態変化	2 溶解度と再結晶		○		
			1 物質の状態変化 2 物質の状態変化と体積・質量の変化	○			
			3 状態変化が起こるときの温度と蒸留	○		○	
		(1年)単元3 身のまわりの現象	1 物の見え方	○		○	
三 学 期	10	1章 光の世界	2 光の反射	○	○		評 価 の 観 点 知 識 ・ 技 能 自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究しようとしている。 主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
			3 光の屈折	○			
		中間考査(10/5～10/6)		◎	◎		
		2章 音の世界	4 レンズのはたらき		○	○	
	11		1 音の伝わり方	○			
			2 音の性質	○	○		
		3章 力の世界	1 日常生活のなかの力			○	
	12		2 力のはかり方	○			
			3 力の表し方	○			
			4 力のつり合い	○			
冬 季	1	期末考査3年(11/29～12/5)		◎	◎		
		期末考査1・2年(11/30～12/5)		◎	◎		
		(1年)単元4 大地の変化	1 火山の姿からわかること 2 火山がうみ出す物	○		○	
		1章 火をふく大地	3 火山の活動と火成岩 4 火山とともにくらす			○	
	2	冬季休業日(12/21～1/8)					
		2章 動き続ける大地	1 地震のゆれの伝わり方		○		
	3		2 地震が起こるところ	○			
			3 地震に備えるために			○	
		3章 地層から読みとる大地の変化	1 地層のつくりとはたらき	○		○	
三 学 期	1		2 堆積岩	○		○	
			3 地層や化石からわかること 4 大地の変動 5 身近な大地の歴史	○	○		
	2	学年末考査3年(2/22～2/29)		◎	◎		
		学年末考査1・2年(2/26～2/29)		◎	◎		
		(2年)単元2 生物のからだのつくりとはたらき	1 水中の小さな生物	○		○	
	3		2 植物の細胞 3 動物の細胞	○			
			4 生物のからだと細胞	○			
				○			
	4						

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程用)

教科	理科	学年	2 年	時間数	140 時間
----	----	----	-----	-----	--------

教科書名	新しい科学2年 3年	出版社名	東京書籍
------	------------	------	------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単 元	内 容	知	思	主		
一 学 期	4	(2年)単元2 生物のからだのつくりとはたらき	1 葉と光合成	○		○	授 業 の 概 要 理科は、物質やエネルギーに関する物理、化学分野と、生物や自然に関する生物、地学分野を単元ごとに入れ替えながら学習します。 2年生では、物理、化学分野は、「電流の世界」、「化学変化と原子・分子」について、生物、地学分野は、「生物のからだのつくりとはたらき」、「天気とその変化」、「生命の連続性」について学習します。 実験・観察も行いますが、計算問題などの難しい問題の演習も行い、基礎・基本の習得や応用力を身に付けます。	
		2章 植物のからだのつくりとはたらき	2 光合成に必要なもの 3 植物と呼吸	○				
		3章 動物のからだのつくりとはたらき	4 植物と水	○		○		
			5 水の通り道	○		○		
	5	中間考査(5/16～5/17)	1 消化のしくみ	○		○		
			2 呼吸のしくみ 3 呼吸のはたらき	○		○		
		4章 刺激と反応	4 血液のはたらき 5 排出のしくみ	○		○		
			1 刺激と反応	○		○		
	6	(2年)単元1 化学変化と原子・分子	2 神経のはたらき 3 骨と筋肉のはたらき	○		○		
			1 ホットケーキの秘密 2 水の分解	○	○			
	7	期末考査3年(6/28～7/4) 期末考査1・2年(6/29～7/4)		◎	◎			学 習 の 到 達 目 標 ・自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
		1章 物質の成り立ち	3 物質をつくっているもの 4 分子と化学式 5 単体と化合物・物質の分類	◎	◎			
2章 物質どうしの化学変化		1 異なる物質の結びつき	○		○			
			○	○				
夏 季	夏季休業日(7/21～8/24)							
	8							
二 学 期	9	3章 酸素がかかわる化学変化	2 化学変化を化学式で表す	○	○		評 価 の 観 点 知識 ・ 技能 自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 思考 ・ 判断 ・ 表現 自然の事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究しようとしている。	
		4章 化学変化と物質の質量	1 物が燃える変化	○		○		
			2 酸化物から酸素をとる化学変化	○		○		
		1 化学変化と質量の変化			○	○		
	2 物質と物質が結びつくときの物質の割合			○				
	5章 化学変化とその利用	1 化学変化と熱	○		○			
	中間考査(10/5～10/6)		◎	◎				
	10	(2年)単元4 電気の世界	1 静電気と放電	○	○			
		1章 静電気と電流	2 電流の正体 3 放射線の性質と利用	○		○		
		2章 電流の性質	1 電流の利用 2 回路に流れる電流	○		○		
			3 回路に加わる電圧	○	○			
	11	4章 電圧と電流と抵抗	4 電圧と電流と抵抗	○	○			
5 電気エネルギー			○	○				
3章 電流と磁界		1 電流がつくる磁界	○		○			
12		期末考査3年(11/29～12/5) 期末考査1・2年(11/30～12/5)		◎	◎		主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもって振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
	2 モーターのしくみ			○	○			
	3 発電機のしくみ 4 直流と交流			○	○			
	冬季休業日(12/21～1/8)							
三 学 期	1	(2年)単元3 天気とその変化	1 気象の観測	○		○	評 価 方 法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。	
		1章 気象の観測	2 大気圧と圧力 3 気圧と風	○		○		
		2章 雲のでき方と前線	4 水蒸気の変化と湿度	○	○			
			1 雲のでき方 2 気団と前線	○		○		
	3章 大気の動きと日本の天気	1 大気の動きと天気の変化 2 日本の天気と季節風 3 日本の天気の特徴	○		○			
		4 天気の変化の予測 5 気象現象がもたらすめぐみと災害	○		○			
	学年末考査3年(2/22～2/29) 学年末考査1・2年(2/26～2/29)		◎	◎				
			◎	◎				
	3	(3年)単元2 生命の連続性	1 生物の成長と細胞の変化 2 無性生殖	○		○		備 考
		1章 生物の成長と生殖	3 有性生殖 4 染色体の受けつがれ方	○	○			
		2章 遺伝の規則性と遺伝子	1 遺伝の規則性 2 遺伝子の本体 3 遺伝子やDNAに関する研究成果の活用	○		○		

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程用)

教科	理科	学年	3 年	時間数	140 時間
----	----	----	-----	-----	--------

教科書名	新しい科学3年 新編化学基礎	出版社名	東京書籍
------	----------------	------	------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単 元	内 容	知	思	主		
一 学 期	4	単元2 生命の連続性	1 生物の歴史 2 水中から陸上へ	○			授 業 の 概 要 理科は、物質やエネルギー、生物や自然に関する内容を単元ごとに入れ替えながら学習し、中学理科の内容が終了したあとで、高校の理科の内容を学習します。 3年生では、中学理科の内容として、「生命の連続性」、「運動とエネルギー」、「地球と宇宙」、「化学変化とイオン」、「地球と私たちの未来のために」について学習します。 高校の理科の内容は、「化学基礎」という科目について、学習します。 実験・観察も行いますが、計算問題などの難しい問題の演習も行い、基礎・基本の習得や応用力を身に付けます。	
		3章 生物の多様性と進化	3 さまざまな進化の証拠 4 進化と多様性	○		○		
		単元3 運動とエネルギー	1 物体の運動の記録 2 物体の運動の速さの変化	○				
		1章 物体の運動	3 だんだん速くなる運動 4 だんだんおそくなる運動	○				
	5	2章 力のはたらき方	1 力の合成と分解 2 慣性の法則	○	○			
		中間考査(5/16～5/17)		◎	◎			
		3章 エネルギーと仕事	3 作用・反作用の法則 4 水中ではたらく力 1 さまざまなエネルギー 2 力学的エネルギー 3 仕事と力学的エネルギー 4 仕事の原理と仕事率 5 エネルギーの変換と保存		○	○ ○ ○		
	6	単元4 地球と宇宙	1 太陽	○		○		学 習 の 到 達 目 標
		期末考査3年(6/28～7/4) 期末考査1・2年(6/29～7/4)		◎	◎			・自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
		1章 地球の運動と天体の動き	1 太陽の1日の動き 2 地球の自転と方位、時刻 3 星の1日の動き 4 天体の1年の動き 5 地軸の傾きと季節の変化	◎	◎			
			○	○				
7	夏季休業日(7/21～8/24)							
	8	2章 月と金星の見え方	1 月の満ち欠け 2 日食と月食 3 金星の見え方	○		○ ○		
		3章 宇宙の広がり	1 太陽系の天体 2 宇宙の広がり	○		○		
9	単元5 地球と私たちの未来のために	1 生態系	○		○	評 価 の 観 点		
	1章 自然のなかの生物	2 生態系における生物の関係 3 炭素の循環と地球温暖化	○		○	知 識 ・ 技 能		
	2章 自然環境の調査と保全	1 身近な自然環境の調査 2 人間による活動と自然環境 3 自然環境の開発と保全			○	自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。		
10	中間考査(10/5～10/6)		◎	◎		思考・判断・表現 自然の事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究しようとしている。		
	3章 科学技術と人間 地域とつながる	1 さまざまな物質とその利用 2 エネルギー資源の利用 3 科学技術の発展 自然災害と地域のかかわりを学ぶ			○			
	終章 持続可能な社会をつくるために	1 地球環境と私たちの社会	○		○			
11	単元1 化学変化とイオン	1 水溶液と電流	○			主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		
	1章 水溶液とイオン	2 電解質の水溶液の中で起こる変化		○				
	2章 酸、アルカリとイオン	3 イオンと原子のなり立ち 1 酸性やアルカリ性の水溶液の性質	○					
12	期末考査3年(11/29～12/5) 期末考査1・2年(11/30～12/5)		◎	◎		主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		
		2 酸性、アルカリ性の正体	◎	◎				
		3 酸とアルカリを混ぜ合わせたとときの変化	○		○			
冬 季		冬季休業日(12/21～1/8)						
三 学 期	1	3章 化学変化と電池	1 電解質の水溶液の中の金属板と電流 2 金属のイオンへのなりやすさのちがいと電池のしくみ 3 ダニエル電池 4 身のまわりの電池	○			評 価 方 法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。	
		化学基礎 1編 化学と人間生活 1章 科学とは何か	・身のまわりの化学			○		
		2章 物質の成分と構成元素	1 物質の成分 2 物質の構成元素 3 物質の三態	○				
	2	2編 物質の構成	1 原子の構造	○			備 考	
		1章 原子の構造と元素の周期表	2 電子配置と周期表	○				
		学年末考査3年(2/22～2/29) 学年末考査1・2年(2/26～2/29)		◎	◎			
	3	2章 化学結合	1 イオンとイオン結合 2 分子と共有結合 3 金属と金属結合 4 化学結合と物質の分類	◎	◎			
			○	○				
			○	○				

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(4・5年生用)

教科	理科	科目	化学基礎	学年	4 年	類型	共通	単位 数	2 単位
----	----	----	------	----	-----	----	----	---------	------

教科書名	新編 化学基礎	出版社名	東京書籍
------	---------	------	------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	知	思	主	
一 学 期	4	3編 物質の変化	1 原子量・分子量・式量		◎	○	授 業 の 概 要 化学基礎の授業では、物質は粒子であるという化学の基本的な考えから始まり、徐々に酸と塩基の中和、酸化と還元、電気分解などの物質の変化に関する内容を学びます。 ・実験、観察を通して自然現象の中に隠れた法則性に気づき、考えを深めることが大切です。 学 習 の 到 達 目 標 ・化学的な事物・現象についての観察、実験を行い、実験技能の向上を図るとともに自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を身に付ける。 ・身の回りの事物・現象の背後に潜む、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成できる。 ・平衡の原理や物質の性質を学び、それらを用いて基本的な化学現象について探究し、日常生活や社会と関連づけて考察できる。
		1章 物質量と化学反応式	2 物質量		◎	○	
	5		3 溶液の濃度	◎	○		
		中間考査4年(5/16～5/19)		◎	○		
	6		4 化学反応の表し方 ・化学反応式 ・イオン反応式	◎	○		
			5 化学反応式の表す量的関係 ・化学反応式の表す量的関係 ・化学の諸法則	◎	○		
		期末考査(6/28～7/4)		◎	○		
二 学 期	7	2章 酸と塩基	1 酸と塩基 ・酸と塩基の性質 ・酸と塩基の定義 ・広い意味の酸・塩基 ・酸と塩基の価数・酸と塩基の強弱	○	◎	○	評 価 の 観 点 知 識 ・ 技 能 自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程と結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。 思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
		夏季休業日(7/21～8/24)		◎		○	
	8		2 水素イオン濃度とpH ・水素イオン濃度 ・ 水素イオン濃度とpH ・pH指示薬とpHの測定		◎	○	
			3 中和反応と塩の生成	◎			
	9		4 中和滴定 ・中和反応の量的関係 ・中和滴定 ・滴定曲線		◎	○	
		中間考査(10/3～10/6)		◎			
	10	3章 酸化還元反応	1 酸化と還元 ・酸化と還元 ・酸化数と酸化還元反応 2 酸化剤と還元剤 ・酸化剤と還元剤 ・電子の授受と酸化還元反応式 ・酸化剤と還元剤のはたらきの強さ ・酸化還元滴定	◎		○	
				○	◎		
	11			◎	○		
				◎	○		
三 学 期	12	期末考査(11/29～12/5)		◎	○		主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。 評 価 方 法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。 備 考 内容は前期課程の理科よりも高度になります。暗記事項や計算事項も増えてきます。週に2回しか授業がありませんから、復習を心がけ、一日一問の問題演習を継続することが大切です。
		冬季休業日(12/21～1/8)		◎		○	
	1		4 酸化還元反応の応用 ・電池の仕組み ・ 実用電池	◎	○		
			・ 金属の精錬 ・ 電気分解	◎		○	
	2		・ 問題演習	○	◎		
		学年末考査(2/22～2/29)		◎	○	○	
	3		・ 問題演習	◎	○		
				◎	○	○	

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(4・5年生用)

教科	理科	科目	地学基礎	学年	4 年	類型	共通	単位数	2 単位
----	----	----	------	----	-----	----	----	-----	------

教科書名	地学基礎	出版社名	東京書籍
------	------	------	------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単 元	内 容	知	思	主		
一 学 期	4	1編 私たちの大地	1 地球の形と大きさ		○	◎	授 業 の 概 要 一学期は、地球の構造、火山ができる仕組みや、地震が起こる仕組みについて学びます。 二学期は、大気の運動とその原因となる太陽放射、地球の歴史について学びます。 三学期は、地層の成り立ち、造山運動、太陽と太陽系の成り立ち、宇宙の構造と成り立ちについて学びます。 最後に、自然災害への備えや、災害発生時の行動について考えます。	
		1章 大地とその動き	2 地球の構造	○	◎			
			3 地球内部の動きとプレート	◎		○		
			4 大地形の形成と地質構造	○		◎		
	5	中間考査5年(5/9～5/12)	5 変成岩と変成作用	◎	○			
		中間考査4年(5/16～5/19)		◎	○			
		2章 火山活動と地震	1 火山噴火の多様性	○		◎		
	6		2 火成岩	◎	○			
			3 地震の発生		◎	○		
			4 地震が起こる場所	○	◎			
二 学 期	7	期末考査(6/28～7/4)		◎	○		学 習 の 到 達 目 標 ・自然の事物や現象に関心が持てるようになる。 ・地球表面や内部で起こる運動とそれに伴う地震・火山や造山運動の仕組みについて理解することができる。 ・岩石、鉱物や化石などを観察し、種類の違いを区別できる。 ・太陽放射と地表付近の気象現象との関係について理解できる。 ・水が気象現象に及ぼす影響について理解できる。 ・太陽系の成り立ちについて理解できる。 ・銀河と宇宙の構造、宇宙の成り立ちについて理解できる。 ・地震・火山や気象災害などの自然災害が起こる仕組みを理解し、災害への備えや災害発生時の行動について考えておくことができる。	
		2編 私たちの空と海	1 地球大気の構造	○		◎		
		1章 地球の熱収支	2 地球の大気で起こる現象		◎	○		
	8	夏季休業日(7/21～8/24)						
	9	2章 大気と海水の運動	3 地球の熱収支	○	◎			
			1 大気や海水の運動の原因	○		◎		
			2 大気の大循環	○	◎			
	10	中間考査(10/3～10/6)	3 海水とその運動	○		◎		
4編 私たちの地球の歴史		4 大気と海洋の相互作用	○	◎				
三 学 期	11	1章 地層と化石の観察	1 地層の形成	○		◎	評 価 の 観 点 知識 ・ 技能 ・自然の事物や現象に関心が持てるようになる。 ・地球表面や内部で起こる運動とそれに伴う地震・火山や造山運動の仕組みについて理解することができる。 ・岩石、鉱物や化石などを観察し、種類の違いを区別できる。 ・太陽放射と地表付近の気象現象との関係について理解できる。 ・水が気象現象に及ぼす影響について理解できる。 ・太陽系の成り立ちについて理解できる。 ・銀河と宇宙の構造、宇宙の成り立ちについて理解できる。 ・地震・火山や気象災害などの自然災害が起こる仕組みを理解し、災害への備えや災害発生時の行動について考えておくことができる。	
		2章 古生物の変遷と地球環境	2 地層からわかる情報	○		◎		
			1 地球史の最初期 2 先カンブリア時代	○		◎		
	12		3 古生代 4 中生代	◎	○			
			5 新生代		○	◎		
			6 人類の進化	◎	○			
	13		7 地球環境の変化による生物の変遷	○		◎		
		期末考査(11/29～12/5)		◎	○			
		3編 私たちの宇宙の誕生	1 宇宙の誕生と宇宙の姿	◎	○			
	14	1章 宇宙の構造と進化	2 太陽系の誕生	○		◎		
冬季休業日(12/21～1/8)								
四 学 期	1		3 太陽系の構成	○	◎		評 価 方 法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。	
			4 太陽の特徴	○	◎			
			5 地球の特徴		○	◎		
	2	5編 地球に生きる私たち	1 日本の自然環境の特徴 2 日本の自然の恵み	◎	○			
		1章 日本の自然の恵みと防災	3 気象災害と防災	○		◎		
			4 地震による災害と防災 5 火山による災害と防災	○		◎		
	3	学年末考査(2/22～2/29)		◎	○			
				◎	○			
		終1章 地球環境の考え方 終2章 自然環境の変動	1 地球環境の考え方 1 自然環境の変化	○		◎		
	4	終3章 これからの地球環境	2 人間活動がもたらす自然環境の変化 1 世界の取り組み		○	◎		
		2 代替エネルギー 3 持続可能な発展へ	○		◎			

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(4・5年生用)

教科	理科	科目	物理基礎 物理	学年	5 年	類型	理科系	単 位 数	2 2	単位
----	----	----	------------	----	-----	----	-----	-------------	--------	----

教科書名	物理基礎 物理	出版社名	数研出版
------	---------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	知	思	主	
一学期	4	第1編 運動とエネルギー	1 速度 2 加速度	○		◎	授業の概要
		第1章 運動の表し方	3 落体の運動	◎	○		
		第2章 運動の法則	1 力とそのはたらき 2 力のつりあい	◎		○	
		3 運動の法則		○		◎	
	5	中間考査5年(5/9～5/12)		◎	○		第1編は物理基礎、物理とも力学分野です。主に運動する物体について規則性やエネルギー、またそれらの法則を学びます。 第2編は熱・熱エネルギーに関する内容です。物理基礎で、熱に関する諸現象を学び、物理ではそのメカニズムを詳しく学習します。 第3編は波に関する内容です。波動現象の基本的な性質や特徴を学び、音や光の諸現象を学習します。
		中間考査4年(5/16～5/19)	4 摩擦を受ける運動 5 液体や気体から受ける力	◎	○		
		第3章 仕事と力学的エネルギー	1 仕事	○	◎		
	6		2 運動エネルギー 3 位置エネルギー	○		◎	物理基礎の第4編は電気分野です。オームの法則や電気エネルギーについて学びます。 物理基礎の第5編は、身の回りで利用されているエネルギーや、社会で実用化されている技術に関して、物理的側面からその仕組みを学習します。
		第2編 熱	1 熱と物質の状態		○	◎	
		第1章 熱とエネルギー	2 熱と仕事	◎		○	
	7	期末考査(6/28～7/4)		◎	○		学習の到達目標
		第3編 波	1 波と媒質の運動	◎	○		
		第1章 波の性質	2 波の伝わり方	○		◎	
夏季休業日(7/21～8/24)							
二学期	8	第2章 音	1 音の性質 2 発音体の振動と共振・共鳴	◎		○	・物理的な事象・現象についての観察、実験を行い、実験技能の向上を図るとともに自然に対する関心や探究心を高め、物理的に探究する能力と態度を身に付ける。 ・身の回りの事象・現象の背後に潜む、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成できる。
		第4編 電気	1 電気の性質 2 電流と電気抵抗	◎	○		
		第1章 物質と電気	3 電気とエネルギー	○	◎		
	9	第2章 磁場と交流	1 電流と磁場 2 交流と電磁波	○		◎	評価の観点
		第5編 物理学と社会	1 エネルギーの移り変わり	○		◎	
		第1章 エネルギーとその利用	2 エネルギー資源と発電 物理学が拓く世界	○	◎		
	10	中間考査(10/3～10/6)		◎	○		知識・技能 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。
		第1編 力と運動	1 平面運動の速度・加速度	○	◎		
		第1章 平面内の運動	2 落体の運動	◎	○		
		第2章 剛体	1 剛体に働く力のつりあい	○		○	
	11		2 剛体にはたらく力の合力と重心	○	◎		思考・判断・表現 物体の運動と様々なエネルギーについて、観察、実験などを通して探究し、科学的に考察し、表現している。
		第3章 運動量の保存	1 運動量と力積 2 運動量保存則	○	◎		
		第4章 円運動と万有引力	3 反発係数	◎	○		
12		1 等速円運動 2 慣性力	○		◎	主体的に学習に取り組む態度 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
	期末考査(11/29～12/5)		◎	○			
		3 単振動	◎	○			
冬季		4 万有引力	◎		○		
三学期	1	冬季休業日(12/21～1/8)					評価方法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。
		第2編 熱と気体	1 気体の法則 2 気体分子の運動	○		◎	
		第1章 気体のエネルギーと状態変化	3 気体の状態変化	○	◎		
		第3編 波	1 波と媒質の運動 2 正弦波の式	○		◎	
	2	第1章 波の伝わり方	3 波の伝わり方		◎	○	備考 進度はかなり速くなります。復習を心がけ、一日一問の問題演習を継続することが大切です。
		第2章 音の伝わり方	1 音の伝わり方	◎		○	
			2 音のドップラー効果	◎		○	
	3	学年末考査(2/22～2/29)		◎	○		
		第3章 光	1 光の性質	○	◎		
			2 レンズと鏡	○	◎		
			3 光の干渉と回折	◎			

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(4・5年生用)

教科	理科	科目	化学	学年	5 年	類型	理科系	単位数	2 単位
----	----	----	----	----	-----	----	-----	-----	------

教科書名	化学Vol.1理論編、化学Vol.2物質編	出版社名	東京書籍
------	-----------------------	------	------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単 元	内 容	知	思	主		
一 学 期	4	Vol.1理論編 1編 物質の状態 1章 物質の状態	1 物質の三態	◎	○		授 業 の 概 要 第1編は物質の状態と平衡に関する内容です。主に気体・液体・固体の性質や構造について学びます。 第2編は化学反応とエネルギーに関する内容です。化学反応によって生じる熱や光、電池や電気分解のしくみを学習します。 第3編は化学反応の速さと平衡に関する内容です。反応速度の理論や可逆反応における平衡移動およびその法則などを学習します。 第4編は無機分野です。さまざまな元素の単体やその化合物の性質を学び、周期表の規則性も学習します。 化学の第4編の残りや第5編以降は、主に6年生で学習します。	
		2章 気体の性質	1 気体	◎		○		
			2 気体の状態方程式	○	◎			
	5	中間考査5年(5/9～5/12)		◎	◎			
		3章 溶液の性質	1 溶解		◎	○		
			2 希薄溶液の性質	○	◎			
	6	4章 固体の構造	3 コロイド	◎	○			
			1 結晶 2 金属結晶の構造	◎	○			
			3 イオン結晶の構造	◎	○			
			4 分子結晶と共有結合の結晶	◎		○		
7	期末考査(6/28～7/4)		◎	◎				
	2編 化学反応とエネルギー	1 反応とエンタルピー変化	◎	◎				
	1章 化学反応と熱・光	2 ヘスの法則	◎		○			
夏季	夏季休業日(7/21～8/24)					○ ◎	・化学の基本法則を学び、それらを用いて基本的な化学現象について解析することができる。	
	8		3光とエネルギー	◎		○	評 価 の 観 点 知識 ・ 技能 自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程と結果を的確に記録・整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	
2章 電池と電気分解		1 電池	○	◎				
		2 電気分解	○	◎				
9	3編 化学反応の速さと平衡	1 反応の速さ	◎		○			
	1章 化学反応の速さ	2 反応速度を変える条件	○	◎				
		3 反応のしくみ	◎		○			
10	中間考査(10/3～10/6)		◎	◎				
	2章 化学平衡	1 可逆反応と化学平衡	○	◎				
		2 平衡移動	○	◎				
11	3章 水溶液中の化学平衡	1 電離平衡	◎		○			
				○	◎			
		2 塩の水への溶解	◎	○				
12	期末考査(11/29～12/5)		◎	◎		主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。		
	vol.1.2物質編 4編 無機物質 1章 周期表と元素	1 周期表と元素	◎		○			
	2章 非金属元素の単体と化合物	1 水素とその化合物	◎		○			
冬季	冬季休業日(12/21～1/8)							
	1		2 貴ガス 3 酸素とその化合物	◎			○	評 価 方 法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。
2			3 酸素とその化合物	◎			○	
			4 ハロゲンとその化合物	◎			○	
		5 硫黄とその化合物	◎		○			
		6 窒素・リンとその化合物	◎		○			
3	7 炭素・ケイ素とその化合物	◎		○				
	学年末考査(2/22～2/29)		◎	◎		備 考		
3	3章 典型金属元素の単体と化合物	1 アルカリ金属とその化合物	◎		○			
		2 アルカリ土類金属とその化合物	◎		○			
		3 1. 2族以外の典型金属元素とその化合物	◎		○			

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(4・5年生用)

教科	理 科	科目	生物基礎	学年	5 年	類型	文科系	単位数	2 単位
----	-----	----	------	----	-----	----	-----	-----	------

教科書名	高等学校 生物基礎	出版社名	数研出版
------	-----------	------	------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	知	思	主	
一 学 期	4	第1編 生物の特徴	第1節 生物の多様性と共通性	○	○	◎	授 業 の 概 要 ・生物の共通性について考え、遺伝子やタンパク質の合成、ヒトを中心とした動物の生理、生物の多様性に注目した生態系などについて大まかに広く学びます。 ・座学だけでなく、観察、実験などの探究活動を通して、生物学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を考察し、科学的な見方や考え方を身に付けていきます。 学 習 の 到 達 目 標 ・日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を養う。 ・生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
		第1章 生物の特徴	第2節 エネルギーと代謝	○	○	◎	
			第3節 呼吸と光合成	○	○	◎	
			知識の確認・補充問題	◎	◎		
	5	中間考査5年(5/9～5/12)		◎	◎		
		中間考査4年(5/16～5/19)		○	○	◎	
			知識の確認・補充問題	◎	◎		
	6	第2章 遺伝子とのはたらき	第1節 遺伝情報とDNA	○	○	◎	
			第2節 遺伝情報の複製と分配	○	○	◎	
			第3節 遺伝情報の発現	○	○	◎	
			知識の確認・補充問題	◎	◎		
	7	期末考査(6/28～7/4)		◎	◎		
			知識の確認・補充問題	◎	◎		
			知識の確認・補充問題	◎	◎		
夏 季		夏季休業日(7/21～8/24)					
二 学 期	8	第2編 ヒトの体内環境の維持	第1節 体内での情報伝達と調節	○	○	◎	評 価 の 観 点 知識 ・ 技能 自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録・整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。 思考 ・ 判断 ・ 表現 自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
		第3章 ヒトの体内環境の維持	第2節 体内環境の維持のしくみ	○	○	◎	
			第3節 免疫のはたらき	○	○	◎	
			知識の確認・補充問題	◎	◎		
	9		知識の確認・補充問題	◎	◎		
			知識の確認・補充問題	◎	◎		
		中間考査(10/3～10/6)		◎	◎		
		第3編 生物の多様性と生態系	第1節 植生と遷移	○	○	◎	
	10	第4章 生物の多様性と生態系	第2節 植生の分布とバイオーム	○	○	◎	
			第3節 生態系と生物の多様性	○	○	◎	
			第4節 生態系のバランスと保全	○	○	◎	
			知識の確認・補充問題	◎	◎		
	11		知識の確認・補充問題	◎	◎		
			知識の確認・補充問題	◎	◎		
		期末考査(11/29～12/5)		◎	◎		
	12	第3編 生物の多様性と生態系	第1節 植生と遷移	○	○	◎	主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。 評 価 方 法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。 備 考
		第4章 生物の多様性と生態系	第2節 植生の分布とバイオーム	○	○	◎	
冬 季		冬季休業日(12/21～1/8)					
三 学 期	1		第3節 生態系と生物の多様性	○	○	◎	
			第4節 生態系のバランスと保全	○	○	◎	
			知識の確認・補充問題	◎	◎		
			知識の確認・補充問題	◎	◎		
	2		知識の確認・補充問題	◎	◎		
			知識の確認・補充問題	◎	◎		
		学年末考査(2/22～2/29)		◎	◎		
	3		探究活動1	◎	○	◎	
			探究活動2	◎	○	◎	
			探究活動3	◎	○	◎	

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(4・5年生用)

教科	理 科	科目	生物基礎 生 物	学年	5 年	類型	理科系	単位 数	2 2	単位
----	-----	----	-------------	----	-----	----	-----	---------	--------	----

教科書名	高等学校 生物基礎 ・ 生物	出版社名	数研出版
------	----------------	------	------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	知	思	主	
一 学 期	4	生物基礎 第1編 生物の特徴	第1節 生物の多様性と共通性	○	○	◎	授 業 の 概 要 ・生物基礎の授業では、生物の共通性について考え、遺伝子やタンパク質の合成、ヒトを中心とした動物の生理、生物の多様性に注目した生態系などについて大まかに広く学びます。 ・生物の授業では、生物基礎の内容をベースに、さらに広く深く学びます。5年次には、生物の進化、細胞と分子、代謝、遺伝情報の発現と発生について学びます。 ・座学だけでなく、観察、実験などの探究活動を通して、生物学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を考察し、科学的な見方や考え方を身に付けることができます。
		第1章 生物の特徴	第2節 エネルギーと代謝	○	○	◎	
			第3節 呼吸と光合成 知識の確認・補充問題	◎	◎	◎	
	5	第2章 遺伝子とそのはたらき	第1節 遺伝情報とDNA	○	○	◎	
		中間考査5年(5/9～5/12)		◎	◎		
		中間考査4年(5/16～5/19)	第2節 遺伝情報の複製と分配	○	○	◎	
	6		第3節 遺伝情報の発現	○	○	◎	
			知識の確認・補充問題	◎	◎		
		第2編 ヒトの体内環境の維持	第1節 体内での情報伝達と調節	○	○	◎	
	7	第3章 ヒトの体内環境の維持	第2節 体内環境の維持のしくみ	○	○	◎	
		第3節 免疫のはたらき	○	○	◎		
						学 習 の 到 達 目 標	
7	期末考査(6/28～7/4)		◎	◎		・日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を養う。 ・生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。	
		知識の確認・補充問題	◎	◎			
			◎	◎			
夏季	夏季休業日(7/21～8/24)						
	8	第3編 生物の多様性と生態系		○	○		◎
		第4章 生物の多様性と生態系	第1節 植生と遷移	○	○		◎
9			第2節 植生の分布とバイオーム	○	○		◎
		第3節 生態系と生物の多様性	○	○	◎		
		第4節 生態系のバランスと保全	○	○	◎		
二 学 期	10	知識の確認・補充問題		◎	◎		評 価 の 観 点 知識 ・ 技能 自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
		中間考査(10/3～10/6)		◎	◎		
		生物 第1編 生物の進化	第1節 生命の起源と生物の進化 第2節 遺伝子の変化と多様性	○	○	◎	
	11	第1章 生物の進化	第3節 遺伝子の組み合わせの変化 第4節 進化のしくみ	○	○	◎	
			第5節 生物の系統と進化 第6節 人類の系統と進化	○	○	◎	
			知識の確認・補充問題	◎	◎		
	12	第2編 生命現象と物質		○	○	◎	
		第2章 細胞と分子	第1節 生体物質と細胞 第2節 タンパク質の構造と性質	○	○	◎	
		期末考査(11/29～12/5)		◎	◎		
	冬季		第3節 化学反応にかかわるタンパク質 第4節 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質	○	○	◎	
		知識の確認・補充問題	◎	◎			
冬季休業日(12/21～1/8)							
三 学 期	1	第3章 代謝	第1節 代謝とエネルギー 第2節 代謝と発酵	○	○	◎	評 価 方 法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。
			第3節 光合成	○	○	◎	
			知識の確認・補充問題	◎	◎		
	2	第3編 遺伝情報の発現と発生		○	○	◎	
		第4章 遺伝情報の発現と発生	第1節 DNAの構造と複製 第2節 遺伝情報の発現	○	○	◎	
			第3節 遺伝子の発現調節	○	○	◎	
	3	学年末考査(2/22～2/29)		◎	◎		
				◎	◎		
			第4節 発生と遺伝子発現	○	○	◎	
			第5節 遺伝子を扱う技術	○	○	◎	
		知識の確認・補充問題	◎	◎			
						備 考 進度はかなり速くなります。復習を心がけ、一日一問の問題演習を継続することが大切です。	

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(4・5年生用)

教科	理科	科目	探究理科Ⅰ (化学分野)	学年	5 年	類型	文科系Ⅰ型	単位数	2 単位
----	----	----	-----------------	----	-----	----	-------	-----	------

教科書名	理科学習資料 探究	出版社名	愛媛県高等学校教育研究会理科部会
------	-----------	------	------------------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単 元	内 容	知	思	主		
一 学 期	4	有効数字の計算	有効数字の計算	○	◎		授 業 の 概 要 身の回りの産業やそこで利用されている科学的な仕組みについて学習し理解を深めた後、化学基礎の内容を復習していきます。4年次にできなかった実験や観察を行い、科学的な考え方や態度を身に付けます。3学期には、化学分野における総復習の意味で、問題演習を中心として学力の定着を図ります。	
		物質の構成 1章 原子の構造と元素の周期表	1 原子の構造	◎		○		
		1 物質の構成粒子	2 電子配置と周期表	◎	○			
		中間考査5年(5/9～5/12)		◎	◎			
	5							
		2 化学結合	1 イオンとイオン結合	◎		○		
	6		2 分子と共有結合	◎		○		
			3 金属と金属結合	◎		○		
		期末考査(6/28～7/4)		◎	◎			
	7		4 化学結合と物質の分類	◎	◎			
			◎		○			
夏季			◎		○			
	夏季休業日(7/21～8/24)							
二 学 期	8	物質の変化 1章物質量と化学反応式	1 原子量・分子量・数料	○	◎		・自然における化学の基本的な概念や原理・法則を理解すると同時に、これらを活用して新しい事物や、複雑な事象の奥にある原理や法則を解明する能力を養う。 ・物質や物質の状態・変化について化学的に考察する態度と能力を養い、科学的に正しい物質観を育てる。	
			2 物質量	○	◎			
			3 溶液の濃度	○	◎			
	9	中間考査(10/3～10/6)		○	◎			評 価 の 観 点
			4 化学反応の表し方	◎	◎			知 識 ・ 技 能
	10	5 化学反応式の表す量的関係		◎	○			自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録・整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
		2章 酸と塩基	1 酸と塩基	○	◎			思 考 ・ 判 断 ・ 表 現
	11		2 水素イオン濃度とpH	○	◎			自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
			3 中和反応と塩の生成	○	◎			
	12	期末考査(11/29～12/5)		◎	◎			主体的に学習に取り組む態度
		4 中和滴定	◎	◎		自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするともに、科学的態度を身に付けている。		
冬季				○	◎			
	冬季休業日(12/21～1/8)							
三 学 期	1	3章 酸化と還元	1 酸化と還元	◎		○	評 価 方 法 学習の状況は「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」、の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。	
			2 酸化剤と還元剤	○	◎			
			3 金属の酸化還元反応	◎	○			
			4 酸化還元反応の応用	○	◎			
	2	問題演習	問題演習	◎	◎			
		学年末考査(2/22～2/29)		◎	◎			
3	問題演習	問題演習	◎	◎		備 考		
			◎	◎				

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(4・5年生用)

教科	理科	科目	探究理科Ⅰ (地学分野)	学年	5 年	類型	文科系Ⅰ型	単位数	2 単位
----	----	----	-----------------	----	-----	----	-------	-----	------

教科書名	理科学習資料 探究	出版社名	愛媛県高等学校教育研究会理科部会
------	-----------	------	------------------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	知	思	主	
一 学 期	4	1 四国の自然	・四国の地質 ・火成岩の観察 ・堆積岩の観察 ・変成岩の観察 ・地層の形成	◎		○	授 業 の 概 要 一学期は、四国の地質について学び、四国の成り立ちについて考察します。また四国で発生する地震のメカニズムと想定される災害について学び、今後の防災への備えについて考えます。 二学期は、火山噴火の仕組みと災害、大気の運動の仕組みと気候との関係、四国の気象災害、愛媛に縁のある先人や産業について学びます。 三学期は、今まで学んだことを生かし、問題演習を通して地学分野に関する理解を深めていきます。 学 習 の 到 達 目 標 ・自然の事物や現象に関心が持てるようになる。 ・四国の成り立ちと、現在も起こる地震とその災害について理解し、防災意識を高めることができる。 ・日本で起こる火山災害、気候の仕組みと四国で発生する気象災害について理解し、防災意識を高めることができる。 ・愛媛に縁のある先人や産業について理解できる。 ・人間の生活と自然環境との相互作用を理解し、持続可能な社会を構築するための行動目標を設定することができる。
		中間考査5年(5/9～5/12)		◎	○		
	5	中間考査4年(5/16～5/19)	・岩石薄片の観察	◎	○		
		2 地震と災害	・地震発生のメカニズム ・四国沖で発生する地震 ・四国の活断層と地形 ・地震による災害と防災 ・家庭での防災の取組	◎	○		
	6	期末考査(6/28～7/4)		◎	○		
		3 火山と災害	・マグマの成分と火山噴火との関係 ・火山災害	◎	○		
	7	夏季休業日(7/21～8/24)					
		4 気象と災害	・日本の気候 ・世界の気候 ・大気の大循環 ・日本付近の気団 ・四国の気象災害 ・気候と海流	◎	○		
	8	中間考査(10/3～10/6)		◎	○		
		5 愛媛の先達・産業	・大野作太郎と化石 ・別子鉱山 ・ドロマイト鉱山	○		◎	
二 学 期	9	6 人間の生活と自然環境	・人間活動と自然との相互作用 ・持続可能な社会 ・まとめ	○	◎		評 価 の 観 点 知 識 ・ 技 能 日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けている。 思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 地球や地球を取り巻く環境について、問題を見いだし見通しをもって観察・実習などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 主 体的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度 地球や地球を取り巻く環境について主体的に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
		問題演習	・問題演習	◎	○		
	10	期末考査(11/29～12/5)		◎	○		
		問題演習	・問題演習	◎	○		
	11	冬季休業日(12/21～1/8)					
		問題演習	・問題演習	◎	○		
	12	問題演習	・問題演習	◎	○		
		問題演習	・問題演習	◎	○		
	1	問題演習	・問題演習	◎	○		
		問題演習	・問題演習	◎	○		
三 学 期	2	学年末考査(2/22～2/29)		◎	○		評 価 方 法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。 備 考
		問題演習	・問題演習	◎	○		
	3	問題演習	・問題演習	◎	○		
		問題演習	・問題演習	◎	○		
	4	問題演習	・問題演習	◎	○		
		問題演習	・問題演習	◎	○		
	5	問題演習	・問題演習	◎	○		
		問題演習	・問題演習	◎	○		
	6	問題演習	・問題演習	◎	○		
		問題演習	・問題演習	◎	○		

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(6年生用)

教科	理 科	科目	物 理	学年	6 年	類型	グローバル理科系	単位数	4 単位
----	-----	----	-----	----	-----	----	----------	-----	------

教科書名	改訂版 物理	出版社名	数研出版
------	--------	------	------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点					授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	関	思	技	知		
一 学 期	4	4編 電気と磁気	1 静電気力 2 電場 3 電位	○			◎		授 業 の 概 要 第4編は電磁気分野です。オームの法則や電気エネルギー、磁気に関する内容を学び、電流と磁気の関連性について学習を深めていきます。 第5編は、原子に関する内容です。ミクロな世界における、物質の粒子性と波動性や、原子の構造、原子核の反応について学習します。
		1章 電場	4 物質と電場 5 コンデンサー		○	○	◎		
		2章 電流	1 オームの法則 2 直流回路 3 半導体		○		◎		
		3章 電流と磁場	1 磁場 2 電流の作る磁場		○		◎		
	5	中間考査(5/16～5/19)	3 電流が磁場から受ける力 4 ローレンツ力			○	◎		
		4章 電磁誘導と電磁波	1 電磁誘導の法則	○			◎		
	6		2 交流の発生		○		◎		
			3 自己誘導と相互誘導		○		◎		
			4 交流回路		○		◎		
			5 電磁波	○			◎		
二 学 期	7	期末考査(6/28～7/4)			○		◎		学 習 の 到 達 目 標 ・物理的な事物・現象についての観察、実験を行い、実験技能の向上を図るとともに自然に対する関心や探究心を高め、物理的に探究する能力と態度を身に付ける。 ・身の回りの事物・現象の背後に潜む、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成できる。 ・物理学の基本法則を学び、それらを用いて基本的な物理現象について解析することができる。
		5編 原子	1 電子		○		○		
	8	1章 電子と光	2 光の粒子性 3 X線		○		○		
		夏季休業日(7/21～8/24)							
	9	2章 原子と原子核	4 粒子の波動性	○		○			
			1 原子の構造とエネルギー準位		○		○		
			2 原子核		○		○		
			3 放射線とその性質			○	○		
	10	中間考査(10/3～10/6)	4 核反応と核エネルギー		○		◎		
			5 素粒子	○			◎		
三 学 期	11	問題演習	問題演習		○		◎		評 価 の 観 点 関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度 自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。 思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 観 察 ・ 実 験 の 技 能 観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。 知 識 ・ 理 解 自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
			問題演習		○		◎		
			問題演習		○		◎		
			問題演習		○		◎		
	12	問題演習	問題演習		○		◎		
			問題演習		○		◎		
			問題演習		○		◎		
			問題演習		○		◎		
	1	問題演習	問題演習		○		◎		
			問題演習		○		◎		
			問題演習		○		◎		
			問題演習		○		◎		
三 学 期	2	問題演習	問題演習		○		◎		評 価 方 法 学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「観察・実験の技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。
			問題演習		○		◎		
			問題演習		○		◎		
			問題演習		○		◎		
	3	問題演習	問題演習		○		◎		
			問題演習		○		◎		
			問題演習		○		◎		
			問題演習		○		◎		
	4	問題演習	問題演習		○		◎		
			問題演習		○		◎		
			問題演習		○		◎		
			問題演習		○		◎		

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(6年生用)

教科	理科	科目	化学	学年	6 年	類型	グローバル理科系	単位数	3 単位
----	----	----	----	----	-----	----	----------	-----	------

教科書名	改訂 化学	出版社名	東京書籍
------	-------	------	------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点					授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	関	思	技	知		
一 学 期	4	第5編 有機化合物	1 有機化合物の特徴	○	○		○		授 業 の 概 要 化学では、前年度から引き続いた内容を学習します。 第5編「有機化合物」の分野では、有機化合物について、基本的な構造、官能基による性質の違いなどについて、実験・観察などを通して学びます。 第6編「高分子化合物」の分野では、日常生活と関連付けながら、高分子化合物の反応性や性質・特徴について学びます。
		1章 有機化合物の特徴と構造	2 有機化合物の構造式の決定 章末問題		◎		○		
		2章 炭化水素	1 飽和炭化水素 2 不飽和炭化水素 章末問題	○	◎		○		
		3章 アルコールと関連化合物	1 アルコールとエーテル 2 アルデヒドとケトン 実験 アルコールとアルデヒド	○		◎	○		
	5	3章 アルコールと関連化合物	3 カルボン酸とエステル 4 油脂とセッケン 章末問題		◎		○		
		中間考査(5/16～5/19)			○		◎		
		4章 芳香族化合物	1 芳香族炭化水素	○	○		○		
	6		2 酸素を含む芳香族化合物 実験 サリチル酸のエステル		○	◎	○		
			実験 「フェノール類」の性質 3 窒素を含む芳香族化合物		○	◎	○		
			4 芳香族化合物の分離 章末問題		○	◎	○		
					◎		○		
	7	期末考査(6/28～7/4)			○		◎		学 習 の 到 達 目 標 ・化学的な事物・現象についての観察、実験を行い、実験技能の向上を図るとともに自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を身に付ける。 ・身の回りの事物・現象の背後に潜む、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成できる。 ・平衡の原理や物質の性質を学び、それらを用いて基本的な化学現象について探究し、日常生活や社会と関連付けて考察できる。
		5章 有機化合物と人間生活	1 食品 2 医薬品 3 染料	○		◎	○		
			4 洗剤 章末問題		◎		○		
	夏季	夏季休業日(7/21～8/24)							
二 学 期	8	第6編 高分子化合物	1 天然高分子化合物	○	○		○		
	9	1章 天然高分子化合物	2 単糖類・二糖類		○		◎		
			3 多糖類		○		◎		
			4 アミノ酸 実験 アミノ酸およびタンパク質の性質	○		◎	○		
			5 タンパク質		○		◎		
			6 核酸		○		◎		
	10	中間考査(10/3～10/6)			○		◎		評 価 の 観 点 関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度 自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。
		2章 合成高分子化合物	1 合成高分子化合物	○	○		○		
			2 合成繊維		○	◎	○		
	11		3 プラスチック		○		◎		
			4 ゴム 章末問題		◎		○		
		3章 高分子化合物と人間生活	1 プラスチック利用の拡大と環境問題 記述問題	○	○		○		
	12	演習問題	問題演習		◎		○		
					◎		○		
		期末考査(11/29～12/5)			◎		○		
	12	演習問題	問題演習		◎		○		
					◎		○		
	冬季	冬季休業日(12/21～1/8)							
三 学 期	1	演習問題	問題演習		◎		○		評 価 方 法 学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「観察・実験の技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。
					◎		○		
					◎		○		
	2		家庭学習		◎		○		
					◎		○		
					◎		○		
	3				◎		○		
									備 考 進度はかなり速くなります。覚えることや計算を必要とする内容も増えてきます。復習を心がけ、一日一問の問題演習を継続することが大切です。

愛媛県立宇和島南中等教育学校(6年生用)

教科書名	改訂版 生物基礎	出版社名	数研出版
------	----------	------	------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単 元	内 容	関	思	技	知		
一 学 期	4	演習問題(生物の特徴)	問題演習(エネルギーと代謝・光合成と呼吸) 観察・実験	○			○	授 業 の 概 要 教科書内容の学習を一通り終わると、発展的な内容や探究活動に取り組み、生物や生物現象の特徴は、共通性が見られると同時に多様性があることを理解し、要因を個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的に捉える能力を養います。	
		探究活動		○	○	○	○		
	5	中間考査(5/16～5/19)					○		
		演習問題(遺伝子とそのはたらき)		○			○		
		探究活動		○	○	○	○		
	6						○		
							○		
							○		
	7	期末考査(6/28～7/4)			○		◎		・5年次に学習した内容を基に、自然界の事象を分析的、総合的に考察する能力と態度を育成するとともに、豊かな科学的素養を養い、入試レベルに対応できる力を身に付ける。
		演習問題(生物の体内環境)		○			○		
		○			○				
夏季	夏季休業日(7/21～8/24)								
二 学 期	8	演習問題(生物の体内環境)	問題演習(免疫) 観察・実験	○			○	評 価 の 観 点 関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度 自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	
		探究活動		○	○	○	○		
	9			○			○		
				○			○		
				○			○		
	10	中間考査(10/3～10/6)			○		◎		
		演習問題(植生の多様性と分布)		○			○		
		探究活動		○	○	○	○		
	11			○			○		
				○			○		
				○			○		
	12	期末考査(11/29～12/5)			○		◎		観 察 ・ 実 験 の 技 能 観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
		演習問題(植生の多様性と分布)		○			○		
				○			○		
	冬季	冬季休業日(12/21～1/8)							知 識 ・ 理 解 自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
三 学 期	1	演習問題(生態系とその保全)	問題演習(生態系のバランスと保全) 家庭学習	○			○	評 価 方 法 学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「観察・実験の技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。	
				○			○		
	2	家庭学習期間		○			○		
				○			○		
				○			○		
	3			○			○		
				○			○		
								備 考	

シ ラ バ ス

令和5年度

愛媛県立宇和島南中等教育学校(6年生用)

教科	理 科	科目	生物	学年	6 年	類型	グローバル理科系	単位数	4 単位
----	-----	----	----	----	-----	----	----------	-----	------

教科書名	改訂版 生物	出版社名	数研出版
------	--------	------	------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点					授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	関	思	技	知		
一 学 期	4	第2編 生殖と発生	4 動物の配偶子形成と受精 5 初期発生の過程	○	○		◎		授 業 の 概 要 前年度に引き続き、生物基礎の内容を基に生物の内容を学習します。 第2編では生物の初期発生の過程と、そこで見られる細胞間の相互作用、その過程で発生する遺伝子とその発現を調節している物質について学習します。 第3編では動物の神経系における情報伝達の仕組みや動物の行動、植物の環境に対する応答、植物の成長過程で働く物質について学びます。 第4編では生態系の中で、多様な生物が共存している様子や仕組み、生物多様性について学びます。 第5編では、生物の進化や多様な生物の分類のしかたについて学びます。 学 習 の 到 達 目 標 ・日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を養う。 ・生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 ・観察や実験、探究活動を行い、得られた結果について自分で考察することで分析する力や思考する力を養う。
		第4章 生殖と発生	6 細胞の分化と形態形成 7 植物の配偶子形成と発生	○	○		◎		
		第3編 生物の環境応答	1 ニューロンとその興奮	○	○		◎		
		第5章 動物の反応と行動	2 刺激の受容 3 情報の統合	○	○		◎		
	5	中間考査(5/16～5/19)			◎	○	◎		
			4 刺激への反応	○	○		◎		
			5 動物の行動	○	○		◎		
		第6章 植物の環境応答	1 植物の生活と環境応答 2 発芽の調節 3 成長の調節 4 環境の変化に対する応答 5 花芽形成・結実の調節	○	○		◎		
	6			○	○		◎		
		期末考査(6/28～7/4)			◎	○	◎		
夏 季	7	第4編 生態と環境	1 個体群 2 個体群内の個体間の関係 3 異種個体群間の関係	○	○		○		
		第7章 生物群集と生態系	4 生物群集 5 生態系における物質生産 6 生態系と生物多様性	○	○		○		
		夏季休業日(7/21～8/24)							
	8	第5編 生物の進化と系統	1 生命の起源と初期の生物の変遷	○	○		○		
		第8章 生命の起源と進化	2 多細胞生物の変遷	○	○		○		
			3 進化のしくみ	○	○		○		
		第9章 生物の系統	1 生物の系統 2 生物の多様性	○	○		○		
	9			○	○		○		
		中間考査(10/3～10/6)			◎	○	◎		
二 学 期	10	演習問題	問題演習	○	○		◎		
				○	○		◎		
				○	○		◎		
				○	○		◎		
	11			○	○		◎		
				○	○		◎		
				○	○		◎		
		期末考査(11/29～12/5)			◎	○	◎		
	12	演習問題	問題演習	○	○		◎		
				○	○		◎		
冬 季	1	冬季休業日(12/21～1/8)							
		演習問題	問題演習	○	○		○		
				○	○		○		
				○	○		○		
	2	家庭学習期間	家庭学習	○	○		○		
				○	○		○		
				○	○		○		
				○	○		○		
	3			○	○		○		
				○	○		○		
				○	○		○		
				○	○		○		

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(6年生用)

教科	理科	科目	探究理科Ⅱ (化学分野)	学年	6 年	類型	グローバル文科系	単位数	2 単位
----	----	----	-----------------	----	-----	----	----------	-----	------

教科書名	化学基礎・化学実験ノート	出版社名	愛媛県高等学校教育研究会理科部会化学部門
------	--------------	------	----------------------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	関	思	技	知	
一 学 期	4	Ⅰ 物質の構成	1 物質の成分と構成元素	○	○		○	授 業 の 概 要 基本的には、化学基礎の内容を復習していきます。また、4・5年次にできなかった実験も行い、化学現象の理解を深めていきます。2学期の後半からは総合問題で、大学入学共通テストにも対応できる力を養っていきます。
			2 原子の構成と元素の周期表		◎		○	
			3 化学結合		◎		○	
			4 化学結合と結晶		◎		○	
	5	中間考査(5/16～5/19)			◎		○	
				○		◎		
	6	Ⅱ 物質の変化	1 物質量と濃度	○	○		○	
					◎		○	
			2 化学反応と化学反応式		◎	○	○	
					◎		○	
7	期末考査(6/28～7/4)			○		◎	学 習 の 到 達 目 標 ・自然における化学の基本的な概念や原理・法則を理解すると同時に、これらを活用して新しい事物や、複雑な事象の奥にある原理や法則を解明する能力を養う。 ・物質や物質の状態・変化について化学的に考察する態度と能力を養い、科学的に正しい物質観を育成できる。	
				○		◎		
		3 酸と塩基・水素イオン濃度		◎		○		
		4 中和と塩		◎	○	○		
二 学 期	8	夏季休業日(7/21～8/24)						
	9	5 酸化還元反応		◎	○	○		
				◎		○		
			6 電池と電気分解		◎	○		○
					◎			○
	10	中間考査(10/3～10/6)		◎		○		
				○		◎		
			7 物質の変化と熱 総合問題演習		◎	○	○	
					◎		○	
11	総合問題		◎		○			
			◎		○			
			◎		○			
			◎		○			
12	期末考査(11/29～12/5)		○		◎			
			○		◎			
			◎		○			
			◎		○			
三 学 期	1	冬季休業日(12/21～1/8)						
			家庭学習		◎		○	
					◎		○	
	2			◎		○		
				◎		○		
			◎		○			
			◎		○			
	3			◎		◎		
				◎		◎		
			◎		◎			
			◎		◎			

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(6年生用)

教科	理 科	科目	探究理科Ⅱ (地学分野)	学年	6 年	類型	グローバル文科系	単位数	2 単位
----	-----	----	-----------------	----	-----	----	----------	-----	------

教科書名	地 学 学 習 帳	出版社名	愛媛県高等学校教育研究会理科部会地学部門
------	-----------	------	----------------------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点					授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単 元	内 容	関	思	技	知			
一 学 期	4	第2章 活動する地球	1 地球を測る	◎	○			授 業 の 概 要 一学期は、地球表層で起こる地震や火山などの現象について理解を深めます。 二学期は、地球の歴史、大気と海洋の相互作用、宇宙の成り立ちについて理解を深めます。また、問題演習によって基礎・基本事項の定着を図ります。 三学期は、問題演習を通して地学分野に関する理解を完成させていきます。		
			2 地球内部の構造		◎	○				
	3 プレートテクトニクス			○		◎				
	4 火山の分布 5 マグマの発生		○		◎					
	6 火成岩の形成			○	◎					
	5	中間考査(5/16～5/19)			○		◎		学 習 の 到 達 目 標 ・自然の事物や現象に関心が持てるようになる。 ・地学分野の基礎・基本事項が身に付く。 ・地球や宇宙で起こる自然現象について、自分なりの表現で説明できるようになる。	
			7 造岩鉱物			○	◎			
	8 地震が発生する仕組み				○		◎			
	9 日本周辺の地震の分布と種類		○	◎						
	10 活断層を探る		○	◎						
	・問題演習				○		◎			
	7	期末考査(6/28～7/4)	1 地表の変化と地層の形成 2 堆積岩		○		◎			
第3章 移り変わる地球				○		◎				
8	夏季休業日(7/21～8/24)									
	8	第4章 大気と海洋	3 地殻変動と変成作用			◎		○		
4 化石と地質時代			○		◎					
1 大気の大循環				○		◎				
2 地球の熱平衡				○		◎				
3 大気と海洋の相互作用			○	◎						
9	4 自然災害	○	◎							
	中間考査(10/3～10/6)			○		◎				
10	第1章 宇宙の姿	・問題演習			○			◎	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	
		1 太陽系	○					◎		
2 太陽の活動		○				◎				
3 恒星の誕生と進化		○				◎				
4 銀河と宇宙の広がり		○				◎				
11	・問題演習			○		◎	観 察 ・ 実 験 の 技 能 観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。			
	12	期末考査(11/29～12/5)	・問題演習		○			◎		
問題演習				○		◎		知 識 ・ 理 解 自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。		
冬季休業日(12/21～1/8)										
1	問題演習	・問題演習		○		◎				評 価 方 法 学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「観察・実験の技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。
				○		◎				
			○		◎					
			○		◎					
			○		◎					
2	家庭学習			○		◎			備 考	
				○		◎				
			○		◎					
			○		◎					
			○		◎					
3				○		◎				
				○		◎				
			○		◎					
			○		◎					
			○		◎					